

## 論文内容の要旨

氏名	宮崎 文
Etiology of atrial fibrillation in patients with complex congenital heart disease - for a better treatment strategy.  (和訳)  複雑先天性心疾患患者における心房細動の病因 -より良い治療戦略のために。	

### 論文内容の要旨

【背景】近年の外科的技術や医療の進歩における先天性心疾患(CHD)患者の生命予後改善による高齢化に伴い、CHD患者においても、心房細動(AF)がより一般的に見られるようになった。特に、複雑CHDはAF発症の最大の危険因子であることが知られる。AF合併CHD患者の動態は一般人口と大きく異なり、一般人口で確立されたAFの知識が必ずしもCHD分野に適用できるとは限らない。CHD患者におけるAFの病因や治療戦略は検討されているが、未だ確立されていない。

【方法】CHDにおけるAFの病因を明らかにし、より良い治療戦略を模索することを目的に、AFを有する心房正位42人の複雑CHD症例(中央値25歳、範囲:9-66歳)における心房負荷の有無を後方視的に評価し、心房負荷の軽減が心房調律に与える影響について検討した。

【結果】基礎心疾患は様々で、左上大静脈遺残(PLSVC)合併が17%にみられた。右房(RA)、左房(LA)、または両心房容量負荷の頻度はそれぞれ50%、23%、10%であった( $p=0.015$ )。AF発症前後に他の持続性上室性頻拍が29人(69%)にみられ、うち26人は心房内リエントリー性頻拍であった。不整脈関連死亡3人、心不全死亡10人を含む15人(36%)が経過中死亡した。うち10人は慢性持続性AFであった。14人(33%)は治療により最終追跡時にAFを認めず、うち8人はRAのみに対するカテーテルアブレーション、またはRA負荷軽減目的の外科的治療を行われていた。

【結論】心房正位の複雑CHDにおけるAFでは、LAよりRA負荷を多く合併し、PLSVC合併率が高く、心房内リエントリー性頻拍が多く存在し、高い死亡率がみられた。RAへの介入は相当数の患者で、AF抑制に有効であった。複雑CHDにおけるAFを効果的に治療するためには、各患者の血行動態を理解し、それに対する介入を考慮することが不可欠である。